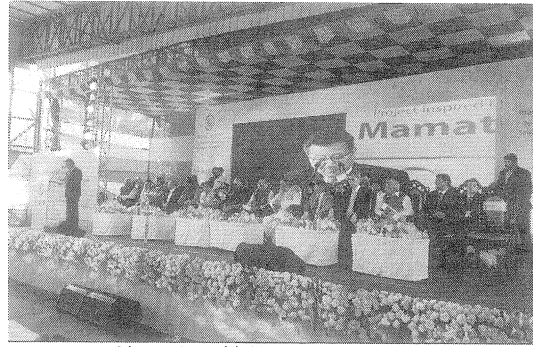


川崎陸送

インドで定温倉庫を竣工

地元野菜の流通加工もアピール



竣工式で挨拶する樋口社長

あるインド現地法人「Kawasaki Solar Warehouse (KSW)」のパートタイマーが作製したシングル産野菜の詰め合わせバスケットを土産として配り、流通加工の付加価値をアピールした。

川崎陸送では日本での定温管理やソーラー自家発電のノウハウを活かし、国際協力機構(JICA)の支援と西ベンガル州政府の協力のもと、コルカタ市郊外のシングルでソーラー発電・蓄電式の小型定温倉庫の建設を進めてきた。

「シヨールム」となる1号倉庫が完成し、今後は農産物の一大収穫地である西ベンガル州北部地域に事業を展開する。

5年間で100棟程度の建設を計画し、第2弾としてイ



現法のパートが作製したバスケット

ンドの西ベンガル州北部のデュープグリおよびバグドグラ、ファンシディワで小型定温倉庫を建設するプロジェクトを発足予定。デュープグリでは隣国ブータン王国へ新鮮な野菜を輸出するための拠点を想定し、バグドグラでは隣接する空港から農産物を欧米に輸出できるようにする。

世界有数の農業国でもあるインドではコールドチェーンが整備されておらず、冷凍機を装備したトラックはインド全体でまだ7000台程度しかない。急速な発展成長を遂げる同国にとってコールドチェーンの整備は喫緊の課題であり、農産物の口を削減することで農家の収入向上も期待できる。

川崎陸送(本社・東京都港区、樋口恵一社長)がインド西ベンガル州コルカタ市郊外のシングルで建設していた定温倉庫が完成し、1月21日に竣工式が開かれた。現地の農産物の保管、流通加工を目的としたソーラー発電・蓄電式の小型定温倉庫で、竣工式にはアミット・ミトラ西ベンガル州財務・商業・工業大臣をはじめ地元農民含め600人以上が出席。子会社で